玉名市文化財調査報告　第 46 集

玉名市内遺跡調査報告書 12

―― 平成 30 年度の調査 ――

令和２（2020）年３月

玉名市教育委員会

玉名市内遺跡調査報告書12
玉名市文化財調査報告　第46集
令和2年3月
玉名市教育委員会

玉名市文化財調査報告　第 46 集

玉名市内遺跡調査報告書 12

―― 平成 30 年度の調査 ――

令和２年（2020）３月

玉名市教育委員会

序　文

玉名市は、熊本県北西部に位置しており、古くから小岱山や菊池川、有明海の恩恵を受け、豊かな自然や温泉、歴史的資源に恵まれた地域です。旧石器時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、装飾古墳をはじめ、旧干拓堤防施設など各時代の文化財が多く所在しております。

玉名市教育委員会では、さまざまな開発事業との調整を図り、発掘調査等の円滑な遂行のため、専門職員の増員を図るなどの体制の充実に努めてまいりました。公共及び民間の様々な事業に対応するため、市内に所在する文化財の状況把握にも常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しています。

本書は、平成３０年度に実施した各種開発に伴う確認調査・発掘調査などの成果をまとめたものです。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、広く教育・文化の発展に寄与できれば幸いに存じます。

令和２年３月 23 日

玉名市教育委員会

教育長　池田　誠一

例 言

1．　本書は、玉名市教育委員会が平成 30 年度に国の補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2．　調査は、玉名市教育委員会文化課蜷父雅史、石松直、田熊秀幸が担当した。
3．　本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成した。
4．　遺物の実測は、藤井めい子が行い、製図を早川イツエが担当した。
5．　調査時の写真撮影は、各調査担当者が行った。
6．　挿図に使用している座標は、玉名市役所税務課の地籍図等から転記した。座標値は、世界測地系の第 2 座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7．　同一年度に同遺跡の調査を複数行っている場合には、アルファベットによる調査地点名を付している。
8．　調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
9．　トレンチの表記は本文中を除き T と省略している。
10.　出土遺物の整理作業及び実測は、玉名市文化財整理室で行った。
11.　本書の執筆は、各担当者が調査後に作成した報告文等をもとに、蜷父、田熊が行い、全体の編集は蜷父、田熊が行った。

本文目次

序文
例言
本文目次
挿図目次
写真目次
表目次
Ⅰ　調査の概要
1　調査の体制 …… 1
2　調査の方法 …… 1
3　調査総括 …… 1
4　活用 …… 2
Ⅱ　平成 30 年度の調査
1　南出遺跡群（A 地点）…… 7
2　高岡原遺跡（A 地点）…… 8
3　西ノ山遺跡群 …… 9
4　高瀬藩邸跡 ……10
5　高岡原遺跡（B 地点）……11
6　高岡原遺跡（C 地点）……13
7　南出遺跡群（B 地点）……14
8　高岡原遺跡（D 地点）……15
9　鳥井原遺跡 ……17
１０　年の神遺跡 ……20
１１　玉名平野遺跡群 ……22
１２　官道跡 ……24
１３　今見堂遺跡隣接地 ……25
１４　下立願寺遺跡群 ……26
観察表
奥付
報告書抄録

挿図目次

Ⅰ　調査の概要
第 1 図　平成 30 年度調査地位置図 …… 3
Ⅱ　平成 30 年度の調査
第 2 図　南出遺跡群（A 地点）調査地位置図 …… 7
第 3 図　南出遺跡群（A 地点）トレンチ配置図 …… 7
第 4 図　南出遺跡群（A 地点）トレンチ実測図 …… 7
第 5 図　高岡原遺跡（A 地点）調査地位置図 …… 8
第 6 図　高岡原遺跡（A 地点）トレンチ配置図 …… 8
第 7 図　高岡原遺跡（A 地点）トレンチ実測図 …… 8
第 8 図　西ノ山遺跡群調査地位置図 …… 9
第 9 図　西ノ山遺跡群トレンチ配置図 …… 9
第 10 図　西ノ山遺跡群トレンチ実測図 …… 9

第 11 図　高瀬藩邸跡調査地位置図 ……10
第 12 図　高瀬藩邸跡トレンチ配置図 ……10
第 13 図　高瀬藩邸跡トレンチ実測図 ……10
第 14 図　高岡原遺跡（Ｂ地点）調査地位置図 ……11
第 15 図　高岡原遺跡（Ｂ地点）トレンチ配置図 ……11
第 16 図　高岡原遺跡（Ｂ地点）トレンチ実測図 ……12
第 17 図　高岡原遺跡（Ｃ地点）調査地位置図 ……13
第 18 図　高岡原遺跡（Ｃ地点）トレンチ配置図 ……13
第 19 図　高岡原遺跡（Ｃ地点）トレンチ実測図 ……13
第 20 図　南出遺跡群（Ｂ地点）調査地位置図 ……14
第 21 図　南出遺跡群（Ｂ地点）トレンチ配置図 ……14
第 22 図　南出遺跡群（Ｂ地点）トレンチ実測図 ……14
第 23 図　高岡原遺跡（Ｄ地点）調査地位置図 ……15
第 24 図　高岡原遺跡（Ｄ地点）トレンチ配置図 ……15
第 25 図　高岡原遺跡（Ｄ地点）トレンチ実測図 ……16
第 26 図　鳥井原遺跡調査地位置図 ……17
第 27 図　鳥井原遺跡トレンチ配置図 ……18
第 28 図　鳥井原遺跡トレンチ実測図 ……19
第 29 図　年の神遺跡調査地位置図 ……20
第 30 図　年の神遺跡トレンチ配置図 ……20
第 31 図　年の神遺跡トレンチ実測図 ……21
第 32 図　年の神遺跡遺物実測図 ……21
第 33 図　玉名平野遺跡群調査地位置図 ……22
第 34 図　玉名平野遺跡群トレンチ配置図 ……22
第 35 図　官道跡調査地位置図 ……24
第 36 図　官道跡トレンチ配置図 ……24
第 37 図　官道跡トレンチ実測図 ……24
第 38 図　今見堂遺跡隣接地調査地位置図 ……25
第 39 図　今見堂遺跡隣接地トレンチ配置図 ……25
第 40 図　今見堂遺跡隣接地トレンチ実測図 ……26
第 41 図　下立願寺遺跡群調査地位置図 ……28
第 42 図　下立願寺遺跡群トレンチ配置図 ……28
第 43 図　下立願寺遺跡群トレンチ実測図 ……　2

写真目次

Ⅰ　調査の概要
写真 1　トレンチ掘削状況 …… 2
写真 2　確認調査状況 …… 2
写真 3　発掘速報展示状況 …… 2
Ⅱ　平成 30 年度の調査
写真 4　南出遺跡群（A地点）1トレンチ（南から）…… 7
写真 5　西ノ山遺跡群 4 トレンチ（東から） …… 9
写真 6　高瀬藩邸跡調査状況（南西から） …… 10
写真 7　高岡原遺跡（B地点）遺構検出作業状況（南東から）…… 11
写真 8　高岡原遺跡（B地点）遺構検出状況（北西から） … 11
写真 9　高岡原遺跡（B地点）遺構完掘状況（北西から）…… 12
写真 10　高岡原遺跡（B地点）遺構完掘状況（北東から）…… 12
写真 11　南出遺跡群（B地点）3トレンチ全景（南西から）　14
写真 12　高岡原遺跡（D地点）遺構検出状況（南東から） … 15
写真 13　高岡原遺跡（D地点）トレンチ全景（北東から） … 16
写真 14　高岡原遺跡（D地点）トレンチ全景（南西から） … 16
写真 15　鳥井原遺跡 8 トレンチ全景（北から） …… 17
写真 16　鳥井原遺跡 9 トレンチ全景（南から） …… 17
写真 17　鳥井原遺跡１３トレンチ遺構検出状況（南から） … 19
写真 18　鳥井原遺跡１４トレンチ遺構検出状況（南から） … 19
写真 19　年の神遺跡遺構検出作業状況（南西から） …… 20
写真 20　玉名平野遺跡群調査地全景（南東から）…… 23
写真 21　玉名平野遺跡群 1 トレンチ全景（北から）…… 23
写真 22　玉名平野遺跡群 3 トレンチ全景（北から）…… 23
写真 23　玉名平野遺跡群 5 トレンチ暗渠検出状況（北西から） 23
写真 24　玉名平野遺跡群 6 トレンチ全景（南東から）… 23
写真 25　玉名平野遺跡群 7 トレンチ全景（北西から）… 23
写真 26　官道跡調査地全景（南西から）…… 23
写真 27　今見堂遺跡隣接地調査地全景（南東から）…… 27
写真 28　今見堂遺跡隣接地調査地全景（南から）…… 27
写真 29　今見堂遺跡隣接地１４トレンチ全景（南東から） … 27
写真 30　今見堂遺跡隣接地１６トレンチ全景（北から）…… 27
写真 31　今見堂遺跡隣接地１７トレンチ全景（西から）…… 27
写真 32　今見堂遺跡隣接地２２トレンチ全景（南から）…… 27
写真 33　今見堂遺跡隣接地３３トレンチ全景（南西から） … 27
写真 34　今見堂遺跡隣接地３３トレンチ風倒木痕（南から）　27
写真 35　下立願寺遺跡群調査地全景（西から）…… 28
写真 36　下立願寺遺跡群 2 トレンチ全景（南から）　28

表目次

第 1 表　平成 30 年度試掘確認調査一覧 ……　4
第 2 表　平成 30 年度出土遺物観察表 ……29

Ⅰ　調査の概要

1　調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は、当時のものである。

平成 30 年度（現地調査）
調査主体　玉名市教育委員会
調査責任　教育長　池田誠一
調査総括　教育部長　戸嵜孝司
　　文化課長　松田智文
　　課長補佐兼文化係長　兵谷有利
　　課長補佐兼文化財係長　田中康雄
庶務担当　主査　蜷父雅史
調査担当　主査　蜷父雅史
　　技術主任　石松直
　　技師　田熊秀幸
発掘作業員　岩井光男　陶山哲士　中島明子

令和元年度（報告書作成）
調査主体　玉名市教育委員会
調査責任　教育長　池田誠一
調査総括　教育部長　西村則義
　　文化課長　松田智文
　　課長補佐兼文化係長　兵谷有利
　　課長補佐兼文化財係長　田中康雄
庶務担当　　主査　蜷父雅史
報告書担当　主査　蜷父雅史
　　技師　田熊秀幸
整理作業員　坂﨑郷子　早川イツエ　藤井めい子

2　調査の方法

試掘確認調査については、0.13 ～ 0.28㎥のバックホーを使用して、幅 0.8 ～ 1 m程度のトレンチを掘削しており、包含層や遺構の一部については人力掘削を行っている。対象面積に対する掘削面積等については特に基準を定めていないが､開発の内容、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。

実測図は、1/20 スケールを基本として、平面・断面図等を作成し、一部三次元計測を行っている。トレンチの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。

写真は、一眼レフデジタルカメラを用いており、重要な遺構などが確認された場合は、フィルムによる撮影を行っている。

3　調査総括

玉名市では、平成 11 年度から、国・県の補助を受け、開発行為等に伴い各種調査を実施している。

平成 30 年度の届出件数等の統計は、文化財保護法第 93 条による届出 82 件、94 条による通知 13 件がなされ、うち試掘確認調査 15 件を実施した。その中で発掘調査となったものが 1 件あった。

全体的に規模の大小を問わず、調査件数のほとんどが民間事業に起因するものであった。

公共事業に伴う調査は 2 件で、学校施設と消防本部新庁舎建設に伴うものであり例年に比べ少なかった。

民間開発関係では、店舗や分譲地の宅地造成に伴うものが多かった。特に玉名市山田に所在する高岡原遺跡では 4 件（Ａ～Ｄ地点）の確認調査を実施している。このうちＢ・Ｄ地点は、平成 29 年度に進入路部分の発掘調査を実施している同じ分譲地内であり、各個人住宅の駐車場部分をトレンチとして確認調査を行った。その結果、いずれも弥生時代から中世と考えられる遺構が検出された。

Ｄ地点は、検出面が工事に影響がなかったため慎重工事となったが、Ｂ地点については遺構の残存度が悪く、その性格や時期を判断するため継続して調査い、遺構の完掘を行っている。

玉名市立願寺所在の鳥井原遺跡は、平成 27 年度から当時の計画に合わせて数回の確認調査を行ってきたところである。平成 30 年度は、新たに共同住宅の計画に伴い、スロープと擁壁工事部分において確認調査を実施した。その結果、弥生時代中期と考えられる竪穴遺構などが検出された。よって協議の結果、令和元年度に原因者負担によって発掘調査を実施することとなった。報告書についても別途刊行する予定である。

玉名市岱明町野口所在の年の神遺跡は、分譲地の進入路部分で確認調査を行った結果、弥生時代中期の竪穴建物、土坑、ピットが検出され、竪穴建物の一部でベッド状遺構が確認された。年の神遺跡における近年の調査で住居跡と考えられる遺構が検出されたのは初めてであった。

玉名市玉名所在の玉名平野遺跡群は、病院建設に伴い平成 29 年度から継続して確認調査を行ってきている。当年度に対象となったのは、玉名小学校跡地であり、一部において水田に伴う遺構が検出されたため、発掘調査を行うこととなった。発掘調査は平成 30 年度に実施しており、別途報告書を刊行予定である。

また、玉名市滑石所在の晒船着場跡では、保存を目的とした確認調査を実施した。計 5 本のトレンチを設定して調査を行った結果、近現代の建物跡や井戸跡、造成に伴う攪乱層が認められ近世の船着場に伴う遺構は検出できなかった。この調査報告書については平成 30 年度に別途刊行している。

写真 1　トレンチ掘削状況

写真 2　確認調査状況

4　活用

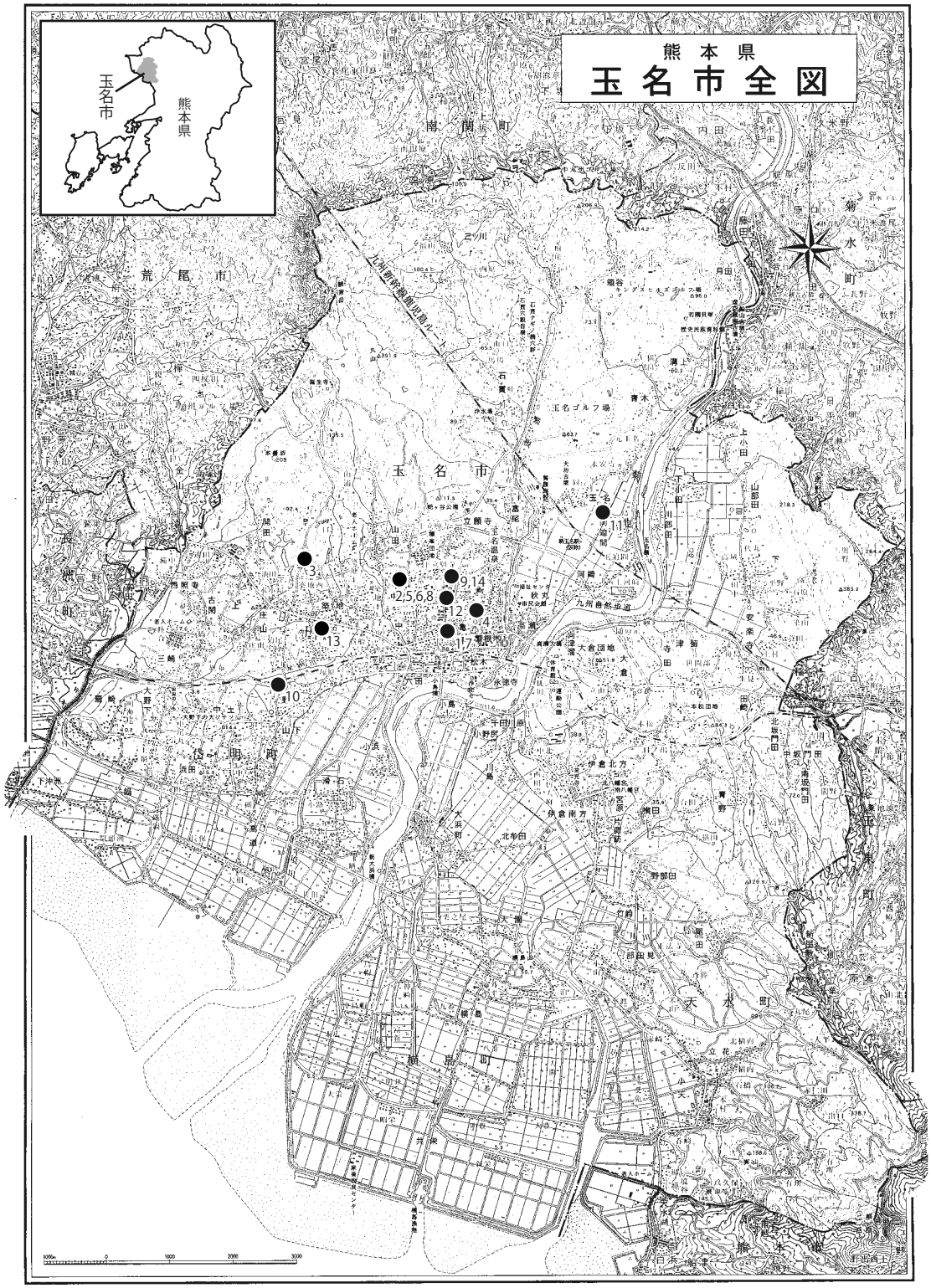
玉名市では、開発行為に伴う試掘確認調査等の結果を年度ごとに報告書として刊行しているが、その成果は市立歴史博物館こころピアにおいて、2 年に 1 回の割合で発掘速報展を開催している。

平成 30 年度においては、9 月 1 日から 9 月 24 日にかけて「古代と現代の架け橋」と題した展示を行った。展示内容は、木船西遺跡、年の神遺跡、山下木佐貫遺跡など近年発掘調査した弥生時代の遺跡を中心に遺物や出土状況の写真パネルを展示した。木船西遺跡からはガラス玉や碧玉製管玉、後漢鏡などの青銅器が出土しており、科学分析（成分分析など）を行っていることから、その成果を紹介した。

その他、平成 29 年度に国庫補助で実施した高岡原遺跡については、発掘現場の完掘状況を三次元計測しており、その画像をスクリーンで常時写し出した。見学者はパソコンのマウスを使ってスクリーン上の画像を自由自在に動かすことができるように設定し、発掘現場を身近に体感してもらうようにした。この期間中、約 800 人の見学者があった。

写真 3-1　発掘速報展示状況

写真 3-2　発掘速報展示状況



1	南出遺跡群（Ａ地点）	7	南出遺跡群（Ｂ地点）	１３	今見堂遺跡隣接地
2	高岡原遺跡（Ａ地点）	8	高岡原遺跡（Ｄ地点）	１４	下立願寺遺跡群
3	西ノ山遺跡群	9	鳥井原遺跡		
4	高瀬藩邸跡	１０	年の神遺跡		
5	高岡原遺跡（Ｂ地点）	１１	玉名平野遺跡群		
6	高岡原遺跡（Ｃ地点）	１２	官道跡		

第１図　平成 30 年度調査地位置図

第１表　平成３０年度試掘確認調査一覧

№.	遺跡名	調査地	敷地面積（㎡）	種別	調査原因	調査期日	担当者	措置
1	南出遺跡群（Ａ地点）	中 1790-2,1790-3	180.44	確認調査	店舗	平成 30 年 4 月 3 日	石松・田熊	慎重工事
2	高岡原遺跡（Ａ地点）	山田 2053-2,2053-3	171.61	調査依頼	専用住宅	平成 30 年 4 月 10 日	田熊秀幸	―
3	西ノ山遺跡群	築地字西ノ山 955 番 49	679.66	確認調査	専用住宅	平成 30 年 5 月 9 日	田熊秀幸	慎重工事
4	高瀬藩邸跡	岩崎 1120 （玉名小学校敷地内）	18,533.81	確認調査	学校施設	平成 30 年 6 月 4 日	蜷父雅史	慎重工事
5	高岡原遺跡（Ｂ地点）	山田字高岡原 1996-8	258.27	確認調査	専用住宅	平成 30 年 6 月 7 日	石松・田熊	慎重工事
6	高岡原遺跡（Ｃ地点）	山田字高岡原 2061-1	1,029.35	確認調査	店舗	平成 30 年 8 月 1 日	蜷父雅史	慎重工事
7	南出遺跡群（Ｂ地点）	中 1802-1,1801-2	711.08	確認調査	店舗	平成 30 年 9 月 4 日 ～ 9 月 5 日	蜷父雅史	工事立会
8	高岡原遺跡（Ｄ地点）	山田字高岡原 1996-11	258.0	確認調査	専用住宅	平成 30 年 9 月 11 日	蜷父雅史	慎重工事
9	鳥井原遺跡（第一次） （第二次）	立願寺 257-1	2,177.0	調査依頼	宅地造成	平成 30 年 10 月 3 日～ 10 月 11 日 平成 31 年 3 月 18 日～ 3 月 20 日	蜷父雅史 田熊秀幸	―
10	年の神遺跡	岱明町野口 2456-5	846.0	調査依頼	宅地造成	平成 30 年 10 月 18 日	蜷父雅史	―
11	玉名平野遺跡群	玉名字水町 856-1	10,351.0	調査依頼	病院	平成 30 年 10 月 22 日～ 10 月 24 日 平成 30 年 11 月 20 日	田熊秀幸	―
12	官道跡	立願寺 201	685.73	確認調査	共同住宅	平成 30 年 12 月 19 日	蜷父雅史	工事立会
13	今見堂遺跡隣接地（第一次） 今見堂遺跡隣接地（第二次）	岱明町下前原 223-1 岱明町下前原 225-1 外 3 筆	807.0 3595	調査依頼	消防本部	平成 31 年 1 月 22 日～ 1 月 23 日 平成 31 年 3 月 13 日～ 3 月 15 日	蜷父雅史 田熊秀幸	慎重工事
14	下立願寺遺跡群	立願寺字山 368 外 2 筆	878.1	調査依頼	宅地造成	平成 31 年 3 月 25 日	田熊秀幸	―

Ⅱ　平成 30 年度の調査

1　南出遺跡群（Ａ地点）

所 在 地：中字内田 1790 番 2,1790 番 3
調査原因：事務所
対象面積：180.44㎡
調査期間：平成 30 年 4 月 3 日
担 当 者：石松　直　田熊秀幸

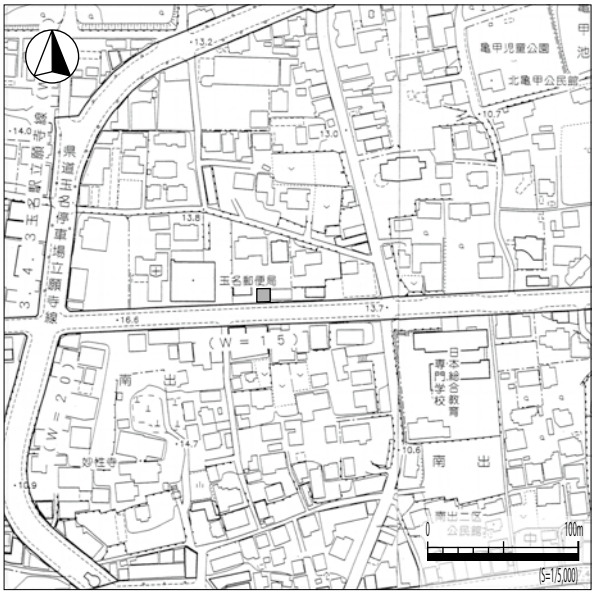
調査地は、菊池川右岸の玉名台地上に位置する標高 15 m程の地点である。平成 15 年度に行った隣地の確認調査では、弥生時代中期と考えられる住居跡、溝跡、甕棺片などが検出されている。

当該地は、事務所の新築に伴って基礎の掘削が生じるため、敷地内に 3 本のトレンチを設定し確認調査を実施した。

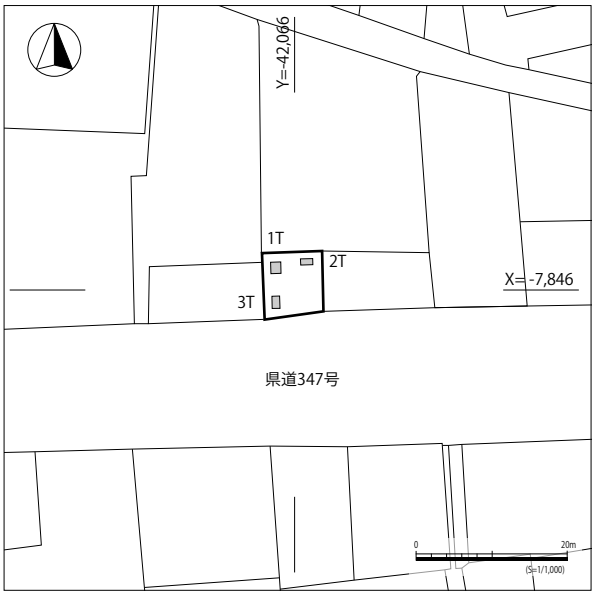
基本土層は、地表下 20㎝までが表土及び整地層（Ⅰ層）、22㎝までが黄褐色粘性土層（Ⅱａ層）、34 ～ 42㎝までが赤褐色粘性土層（Ⅱｂ層）、以下 95 ㎝までの深度で真砂土層（Ⅲ層・風化花崗岩）を認めた。

Ⅱ層上面が遺構検出面相当と考えられるが、面的な検出を行っても遺構は認められず、整地の際に削平を受け、埋蔵文化財は残存していないものと考えられる。なお、2 トレンチにおいて、Ⅱ層上面に弥生土器・土師器片を含む暗褐色土の広がりを認めたが、整地に伴う混入とみられる。

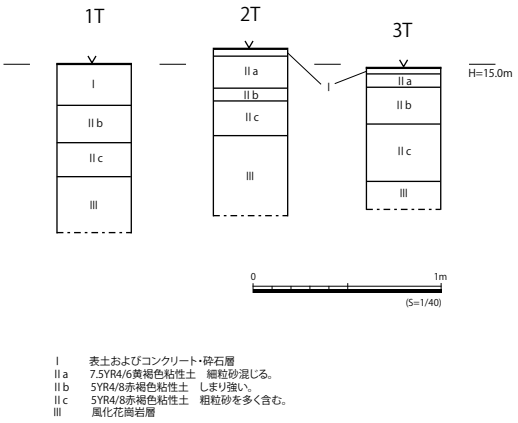
調査後の措置は、慎重工事である。



第２図　南出遺跡群（Ａ地点）調査地位置図　S=1/5,000



第３図　南出遺跡群（Ａ地点）トレンチ配置図　S=1/1,000



第４図　南出遺跡群（Ａ地点）トレンチ実測図　S=1/40

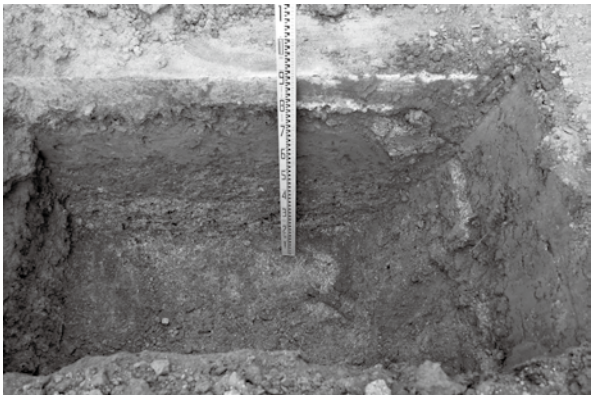


写真４　南出遺跡群（Ａ地点）１トレンチ（南から）

2　高岡原遺跡（Ａ地点）

所 在 地：山田字高岡 2053-3,2053-2
調査原因：専用住宅（調査依頼）
対象面積：171.6㎡
調査期間：平成 30 年 4 月 10 日
担 当 者：田熊秀幸

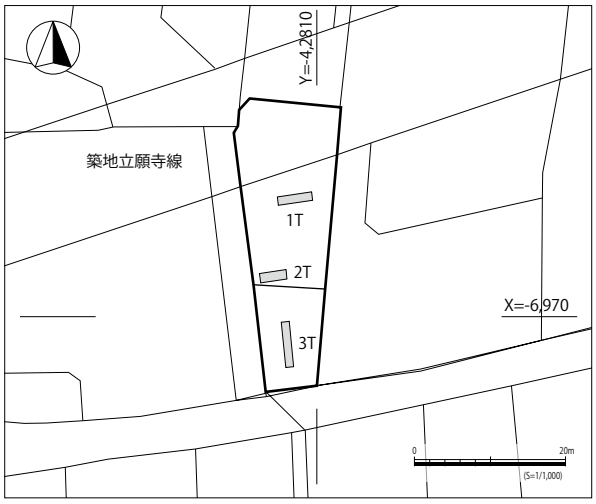
調査地は、境川左岸の丘陵上に位置する標高 23 m程の地点である。一帯は弥生時代後期を中心とする集落遺跡であり、これまでの発掘調査で住居跡が多数確認され、後漢鏡片、小型仿製鏡なども出土している。

当該地は、専用住宅の計画に伴いわずかではあるが切土が想定されたため、敷地内に 3 本のトレンチを設定して、埋蔵文化財の状況を確認した。

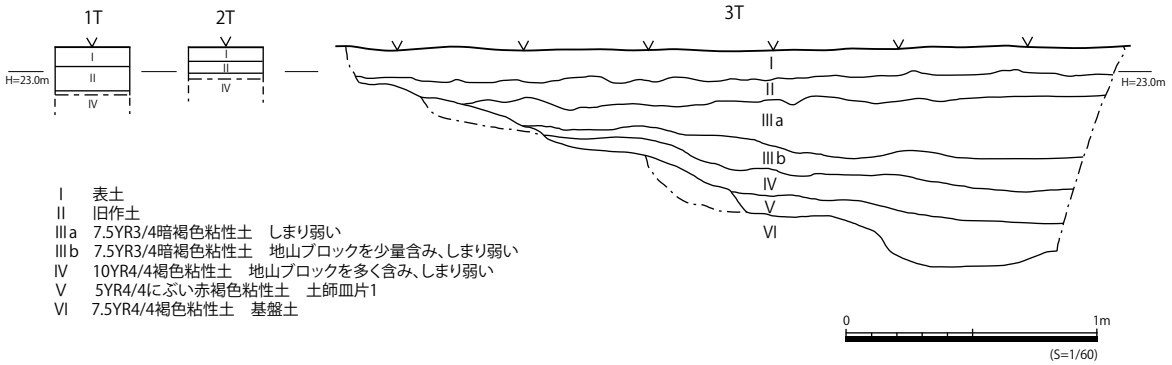
基本土層は、現地表下 20 ～ 35㎝までが現代の表土及び旧耕作土で、以下が褐色粘性土からなる無遺物層（Ⅵ層）であった。

Ⅵ層の上面からは、北側の 1 トレンチで中世の柱穴が 1 基、南側の 3 トレンチでは南側へ下る落ち込みが確認された。この落ち込みの底部からは中世の土師皿片が検出された。敷地南側に接する現在の市道は、いわゆる「中世道」の延長上にあたるため、道路状遺構の可能性が高い。過去の調査でも、東西方向の落ち込みが数か所で確認されている。

第５図　高岡原遺跡（Ａ地点）調査地位置図　S=1/5,000



第６図　高岡原遺跡（Ａ地点）トレンチ配置図　S=1/1,000



第７図　高岡原遺跡（Ａ地点）トレンチ実測図　S=1/60

3　西ノ山遺跡群

所 在 地：山田字高岡 2053-3,2053-2
調査原因：専用住宅
対象面積：679.66㎡
調査期間：平成 30 年 5 月 9 日
担 当 者：田熊秀幸

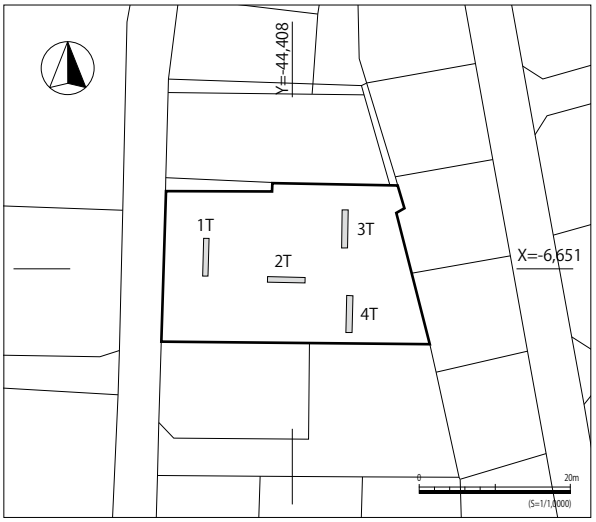
調査地は、小岱山から南へ延びる台地上に位置する、標高 40 m程の地点である。当該地とその周辺は、畑として利用された後に宅地化されている。

敷地内に計 4 本のトレンチを設定し確認調査を実施した結果、基本土層は、地表下 120 ～ 180㎝までが現代の整地層（Ⅰ層）、以下が褐灰色粘性土層（Ⅱ層）、褐色粘性土層（Ⅲ層）であった。

Ⅰ中には、籾殻の透水層（Ⅰｆ層）、粗砂の透水層（Ⅰｇ層）が確認でき、Ⅰｇ層は 1 トレンチでのみ認められた。なお、Ⅰｆ層中に 1991 年製造の菓子袋が混入しており、近年に埋め立て整地が行われたものと考えられる。

調査地は全域で無遺物層まで削平を受けており、埋蔵文化財は残存していないものと判断されることから、慎重工事となった。

第８図　西ノ山遺跡群　調査地位置図　S=1/5,000



第９図　西ノ山遺跡群　トレンチ配置図　S=1/1,000

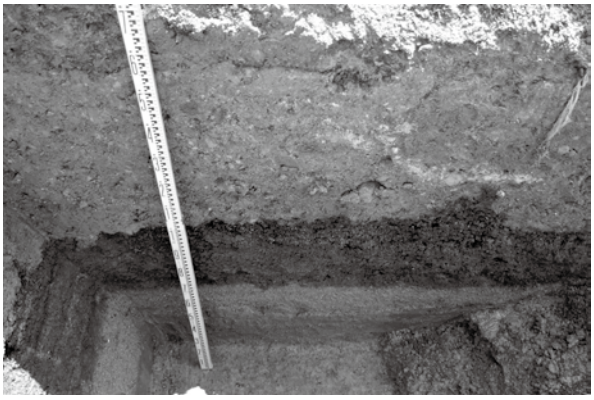
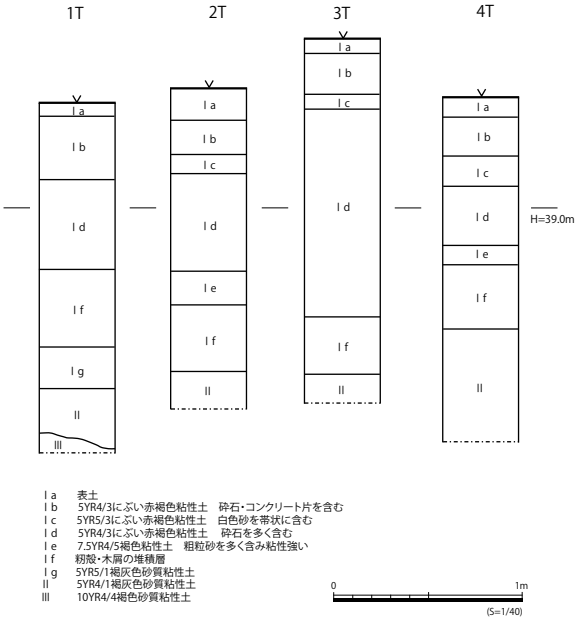


写真５　西ノ山遺跡群　４トレンチ（東から）



第１０図　西ノ山遺跡群トレンチ実測図　S=1/40

4　高瀬藩邸跡

所 在 地：岩崎 1120(玉名町小学校敷地内)
調査原因：学校施設
対象面積：18533.81㎡
調査期間：平成 30 年 6 月 4 日
担 当 者：蜷父雅史・田熊秀幸

当該地は、繁根木川右岸の低丘陵上に位置する標高 15 m程の地点である。現在は玉名町小学校の敷地となっている。一帯は、幕末期に高瀬藩用地として造成が行われ、家臣団屋敷などが形成された。

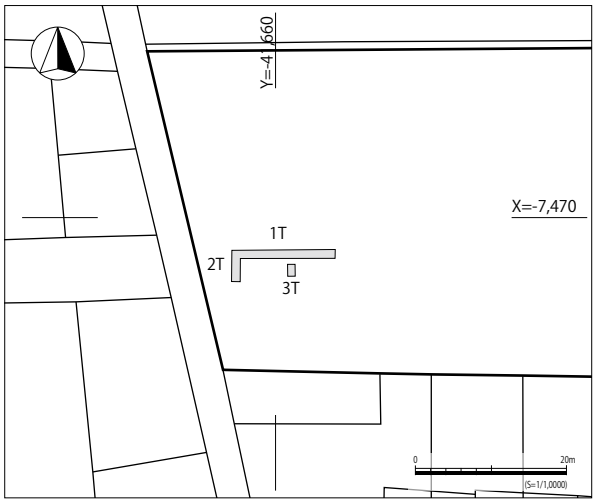
明治 2 年の『高瀬藩図』によると、当該地は「御殿地」とあり、藩邸跡として認識されているが、廃藩置県によって藩邸の建設は中断されたため、建物が完成することはなかった。

平成 27 年度の新校舎建設に伴う確認調査では、近世以降の畑に伴うと考えられる溝が確認されている。

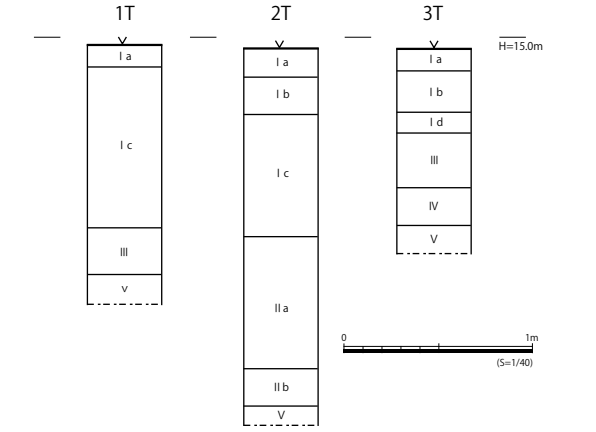
建物予定地に 3 本のトレンチを設定して確認調査を実施した。その結果、基本土層はⅠa～Ⅰb層及びⅡ層が客土、Ⅲ層が灰褐色砂質粘性土層、Ⅳ層が暗褐色粘性土層、Ⅴ層が褐色粘性土層（無遺物層）であった。遺物は、Ⅳ層中に弥生土器や須恵器小片がわずかに混入するが、Ⅳ層は 3 トレンチのみでしか確認していない。確認調査の結果から、工事立会となったが、掘削時に埋蔵文化財は確認できなかった。

写真６　　高瀬藩邸跡　調査状況（南西から）

第１１図　高瀬藩邸跡　調査地位置図　S=1/5,000



第１２図　高瀬藩邸跡　トレンチ配置図　S=1/1,000



第１３図　高瀬藩邸跡　トレンチ実測図　S=1/40

5　高岡原遺跡（Ｂ地点）

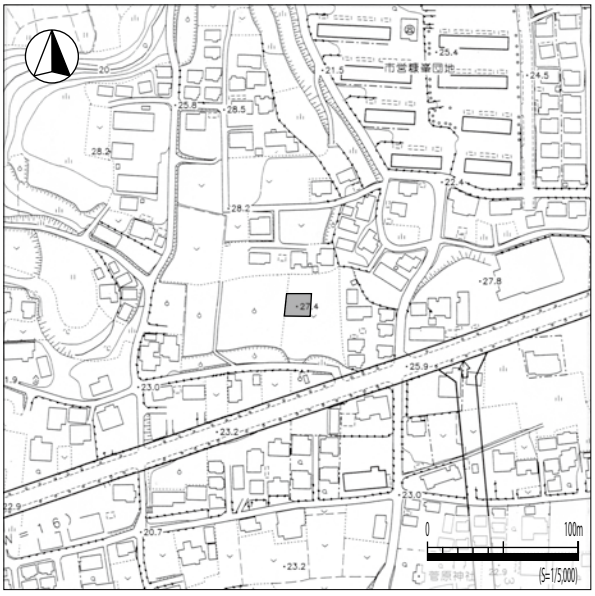
所 在 地：山田字高岡原 1996-8
調査原因：専用住宅
対象面積：258.27㎡
調査期間：平成 30 年 6 月 7 日
担 当 者：田熊秀幸

調査地は、小岱山から南に延びる丘陵上に位置する、標高 26 m程の地点である。隣接する進入路部分については平成 29 年度に発掘調査を実施しており、弥生時代後期の住居跡 7 基、古墳時代の住居跡 1 基、古代と考えられる溝跡 1 条などが確認されている。

駐車場予定地で切土が生じるため、埋蔵文化財に影響が及ぶと想定される 25㎡の範囲について確認調査を実施した。

確認調査の結果、隣接する本調査地と同様、現況地表から約 50㎝の深度（耕作土直下）で遺構が検出された。主な遺構は、中世の土坑 1 基とピット群であり、土坑埋土から中世の土師皿片などが検出された。ピット群は配置から、掘立柱建物であった可能性がある。

工事による基礎の掘削深度は、耕作土内に収まるものと考えられるが、駐車場部分の切土は遺構検出面に及ぶ。しかし､確認された遺構の残存度は浅く、その性格や時期を確認するため継続して調査を行い完掘した。よって、慎重工事となった。

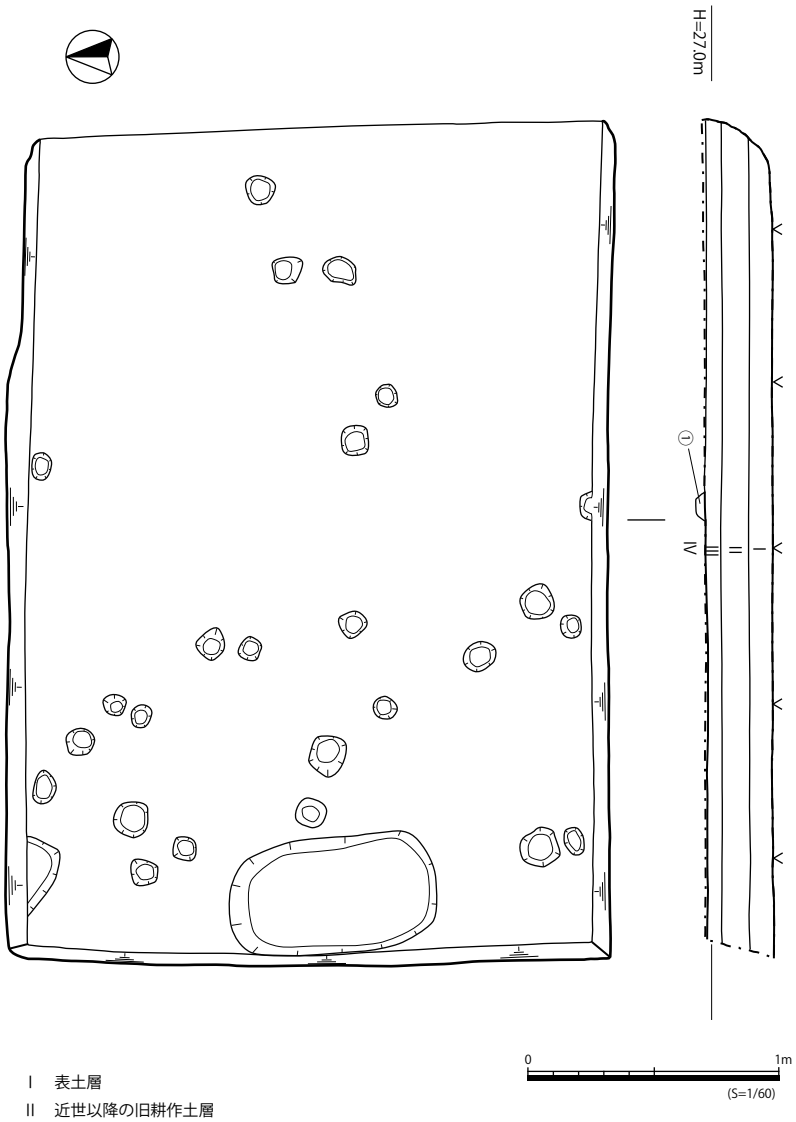


第１４図　高岡原遺跡（Ｂ地点）　調査地位置図　S=1/5,000

第１５図　高岡原遺跡（Ｂ地点）　トレンチ配置図　S=1/1,000

写真７　高岡原遺跡（Ｂ地点）遺構検出作業状況（南東から）

写真８　高岡原遺跡（Ｂ地点）遺構検出状況（北西から）



第１６図　高岡原遺跡（B 地点）トレンチ実測図（S=1/60）

写真 9　高岡原遺跡（Ｂ地点）遺構完掘状況（北西から）

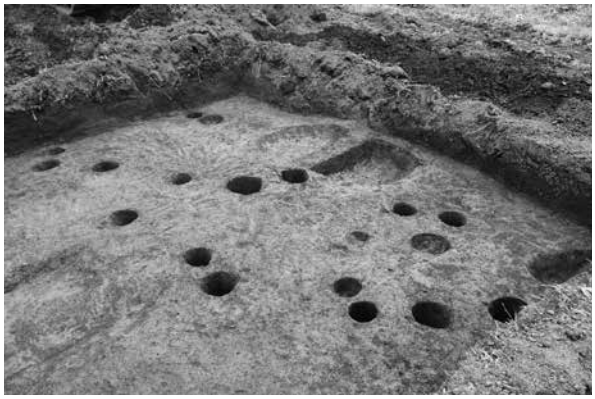


写真 10　高岡原遺跡（Ｂ地点）遺構完掘状況（北東から）

6　高岡原遺跡（Ｃ地点）

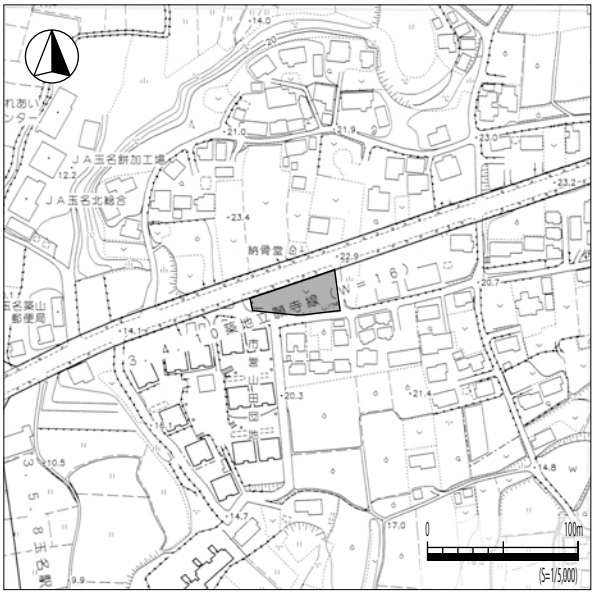
所 在 地：山田字高岡 2061-1
調査原因：飲食店
対象面積：1029.35㎡
調査期間：平成 30 年 8 月 1 日
担 当 者：蜷父雅史

調査地は、小岱山から南に延びる丘陵上に位置する、標高 26 m程の地点である。北側は平成 28 年度に店舗建設に伴う発掘調査を実施しており、中世の城館に伴う溝 1 条や掘立柱建物跡が 8 棟検出され、青白磁や明の染付などが出土している。

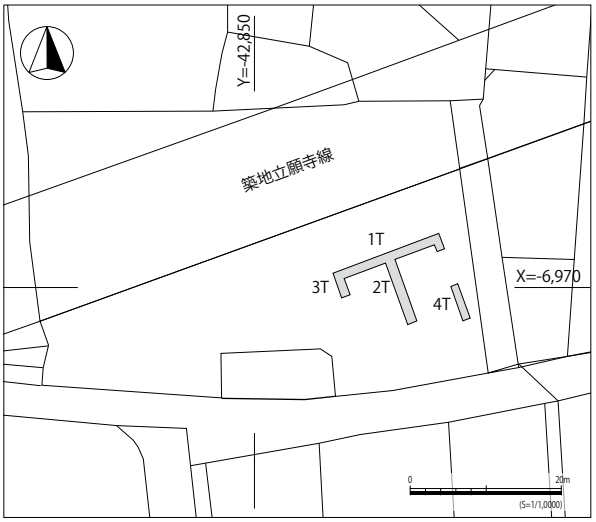
当敷地内の店舗予定地に計 4 本のトレンチを設定し確認調査を実施した。

基本土層は、Ⅰａ～Ⅰｃ層は客土、Ⅱ層が灰褐色土層、Ⅲ層が明褐色土層（無遺物層）であった。遺構は、1 トレンチの東側でピット 2 基を検出したのみである。各トレンチの南側にかけては落ち込みが確認され、近世から近代にかけての陶磁器片などが混入していた。畑地化する際に整地されているものと考えられる。

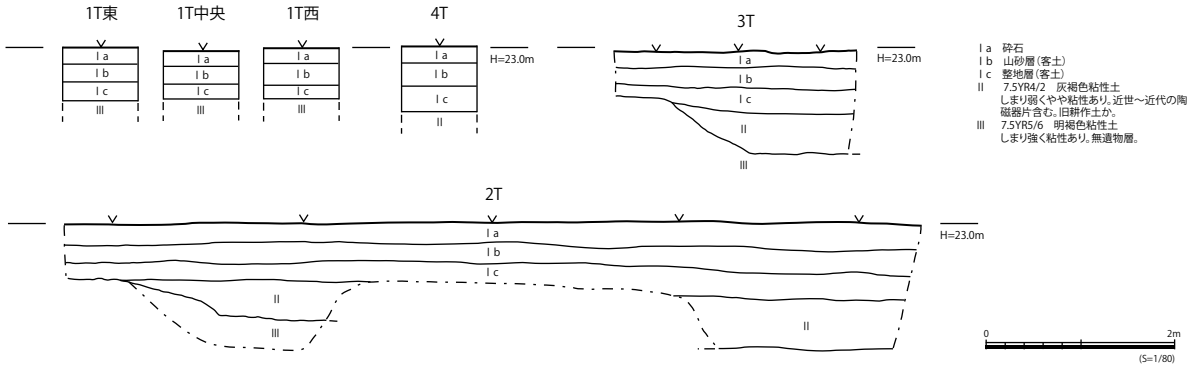
工事による基礎の最大掘削深度は 45㎝であり、現代の客土内に収まると判断されることから、その後の処置は慎重工事となった。



第１７図　高岡原遺跡（Ｃ地点）　調査地位置図　S=1/5,000



第１８図　高岡原遺跡（Ｃ地点）　トレンチ配置図　S=1/1,000



第１９図　高岡原遺跡（Ｃ地点）トレンチ実測図　S=1/80

7　南出遺跡群（Ｂ地点）

所 在 地：中字内田 1801 番 2,1802 番 1
調査原因：店舗
対象面積：711.08㎡
調査期間：平成 30 年 9 月 4 日
担 当 者：蜷父雅史

当該地は、菊池川右岸の玉名台地上に位置する標高 15 m程の地点である。現況は店舗の駐車場となっており、アスファルト舗装されていた。

調査依頼に基づいて、建物が予定されている範囲に計 3 本のトレンチを設定して確認調査を実施した。その結果、基本土層はⅠ層が客土（アスファルト・砕石）層、Ⅱ層が暗褐色粘性土層、Ⅲ層が黒褐色粘性土層、Ⅳ層が褐色粘性土層であった。

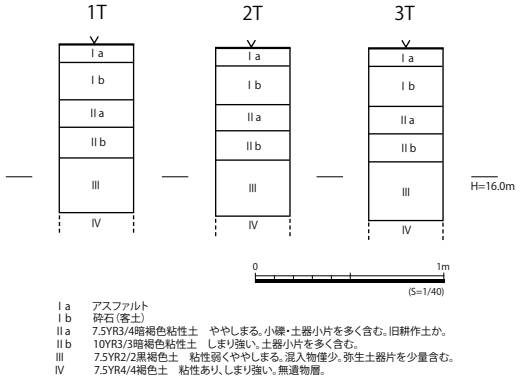
遺物は、Ⅲ層から弥生土器小片を少量検出した程度であり、遺構は認められなかった。

工事による建物の掘削は、部分的に約 1m の基礎が入り、遺物包含層にまで及ぶ計画であったが、確認調査の結果、遺構は確認されなかったため、工事立会となった。 その後、掘削時に工事立会を行ったが埋蔵文化財は確認できなかった。

第２０図　南出遺跡（Ｂ地点）　調査地位置図　S=1/5,000

第２１図　南出遺跡（Ｂ地点）　トレンチ配置図　S=1/1,000

写真１１　南出遺跡（Ｂ地点）　3T 全景（西から）



第２２図　南出遺跡（Ｂ地点）トレンチ実測図　S=1/40

８　高岡原遺跡（Ｄ地点）

所 在 地：山田字高岡原 1996-11
調査原因：専用住宅
対象面積：258㎡
調査期間：平成 30 年９月 11 日～ 12 日
担 当 者：蜷父雅史

調査地は、小岱山から南に延びる丘陵上に位置する標高 26 m程の地点である。以前はぶどう畑として利用されていたが､分譲地として整地されている。

西側に接する進入路部分については平成 29 年度に発掘調査を実施しており、弥生時代後期の住居跡７基、古墳時代の住居跡１基、古代と考えられる溝跡１条などが検出されている。古墳時代の住居跡は竈が付いており、当遺跡内では初めて確認されている。古代の溝は、断面が逆台形型を呈し南北方向へ直線的に延びるものであった。

当分譲地の計画では駐車場部分で切土が発生するため、埋蔵文化財に影響が及ぶと想定される 34㎡の範囲をトレンチと設定して確認調査を実施した。

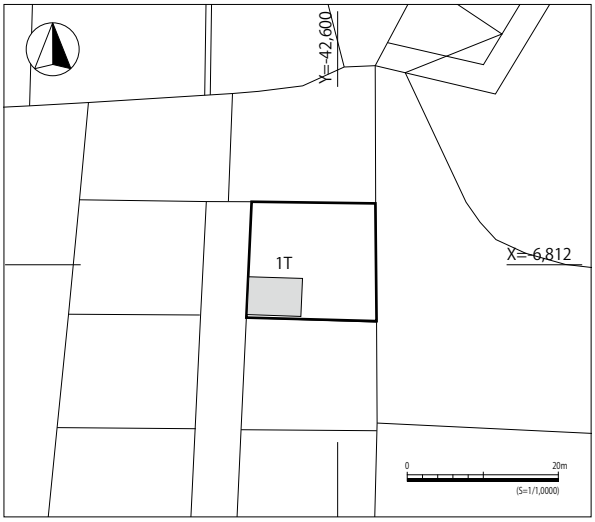
その結果、隣接する本調査地と同様に、現況地表から約 55㎝の深度（Ⅰ層の耕作土直下）で遺構が数基検出された。

主な遺構は、弥生時代後期から古墳時代初頭と考えられる住居跡３基と土坑１基、また古代から中世と考えられる土坑１基と柱穴２基、その他時期不明の土坑とピット群である。完掘は行っていないため、時期の特定が困難であったが、サブトレンチから検出した土器片や覆土の状況から判断した。

以前、当地一帯は遺跡の範囲に含まれていなかったが、このように面積の割には遺構の密度が高いことから、当遺跡の北側にも、複数の遺構が広がっていることが想定される。

建物部分の掘削は、最深部で 36㎝であり、耕作土中に収まるものと考えられる。駐車場部分はスロープ状に切土されるが、その最大掘削深度は遺構検出面まで影響が及ばない。よって、その後の処置は慎重工事となった。

第２３図　高岡原遺跡（Ｄ地点）　調査地位置図　S=1/5,000



第２４図　高岡原遺跡（Ｄ地点）　トレンチ配置図　S=1/1,000

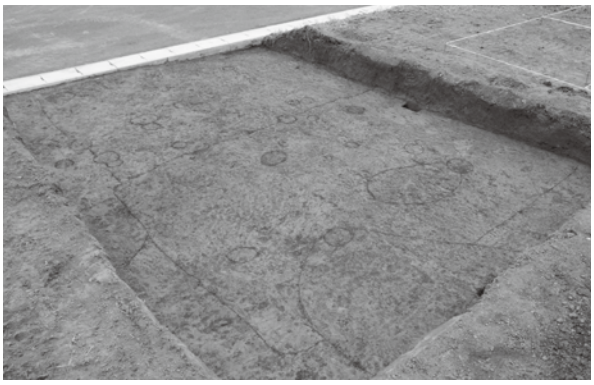
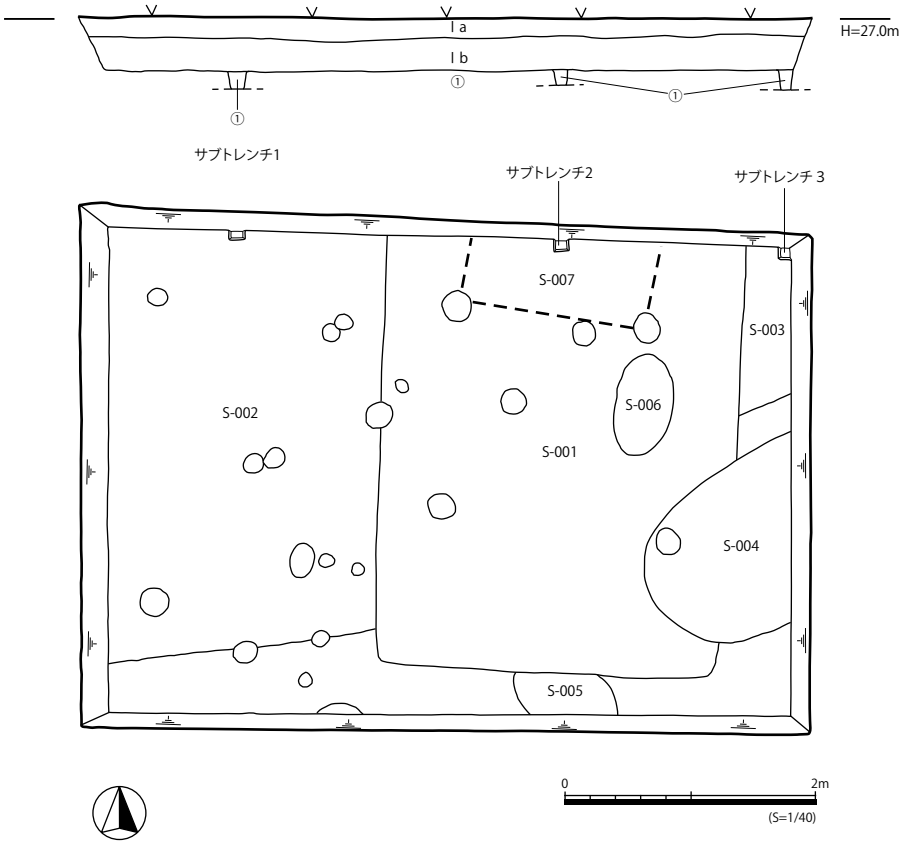


写真１２　高岡原遺跡（Ｄ地点）遺構検出状況　（南東から）



Ⅰ　現代耕作土
Ⅱ　旧耕作土

①　暗褐色粘性土（遺構埋土）

第２５図　高岡原遺跡（Ｄ地点）トレンチ実測図　　S=1/60

写真１３　高岡原遺跡（D 地点）トレンチ全景（北東から）

写真１４　高岡原遺跡（D 地点）トレンチ全景（南西から）

９　鳥井原遺跡

所 在 地：立願寺 257-1
調査原因：宅地造成（共同住宅）
対象面積：2117㎡
調査期間：平成 30 年 10 月 3 日～ 11 日
　　平成 31 年 3 月 18 日～ 20 日
担 当 者：蜷父雅史　田熊秀幸

調査地は、小岱山から南へ延びる台地上に位置する標高 30 m程の地点であり、現況は畑となっているが、既に耕作が放棄されており、雑草の繁茂する荒蕪地である。

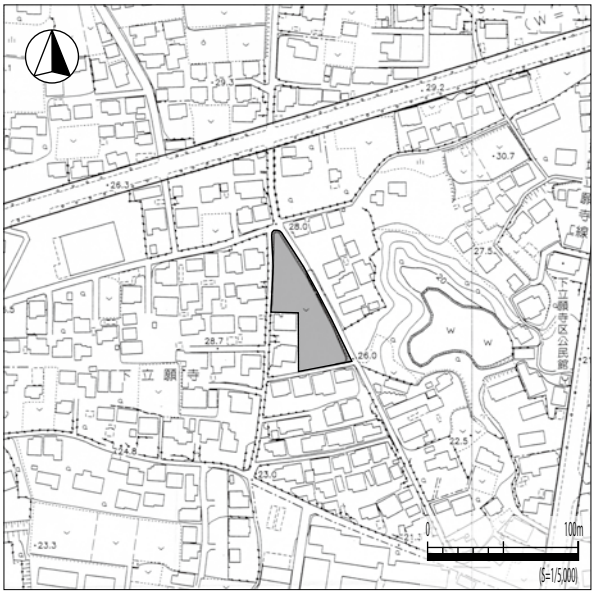
当該地は、平成 24 年度以降、分譲地化に伴う宅地造成等の計画が持ち上がり、調査依頼に基づいた確認調査を過去３度実施してきた。

平成 30 年度の調査も、過去の調査と同様に、調査依頼に基づき実施した。調査は２段階に分けて行い、第一次調査では合計 11 か所のトレンチを設定し、全体の遺構分布状況を確認した。次いで、第二次調査では、進入路および階段の施工箇所が確定したため、それに沿って３か所のトレンチを設定し、確認調査を実施した。

その結果、両調査とも、現地表下 30cm から 70cm までの深度で遺構が確認された。検出された遺構は柱穴群および竪穴建物であり、出土遺物から、遺構の時期は弥生時代中期中葉（黒髪式並行）以降が中心と考えられる。

調査終了後、共同住宅建設および進入路、擁壁工事等に伴う造成計画が確定したが、造成の際に進入路及び擁壁部分で切土が発生する内容であった。よって、掘削が遺構面まで及び、埋蔵文化財に対して影響を及ぼす範囲（227㎡）については、発掘調査が必要と判断された。

その後、工事主体者と協議の結果、原因者負担によって平成 31 年度に発掘調査を実施した。その成果については、別途報告書を刊行予定である。

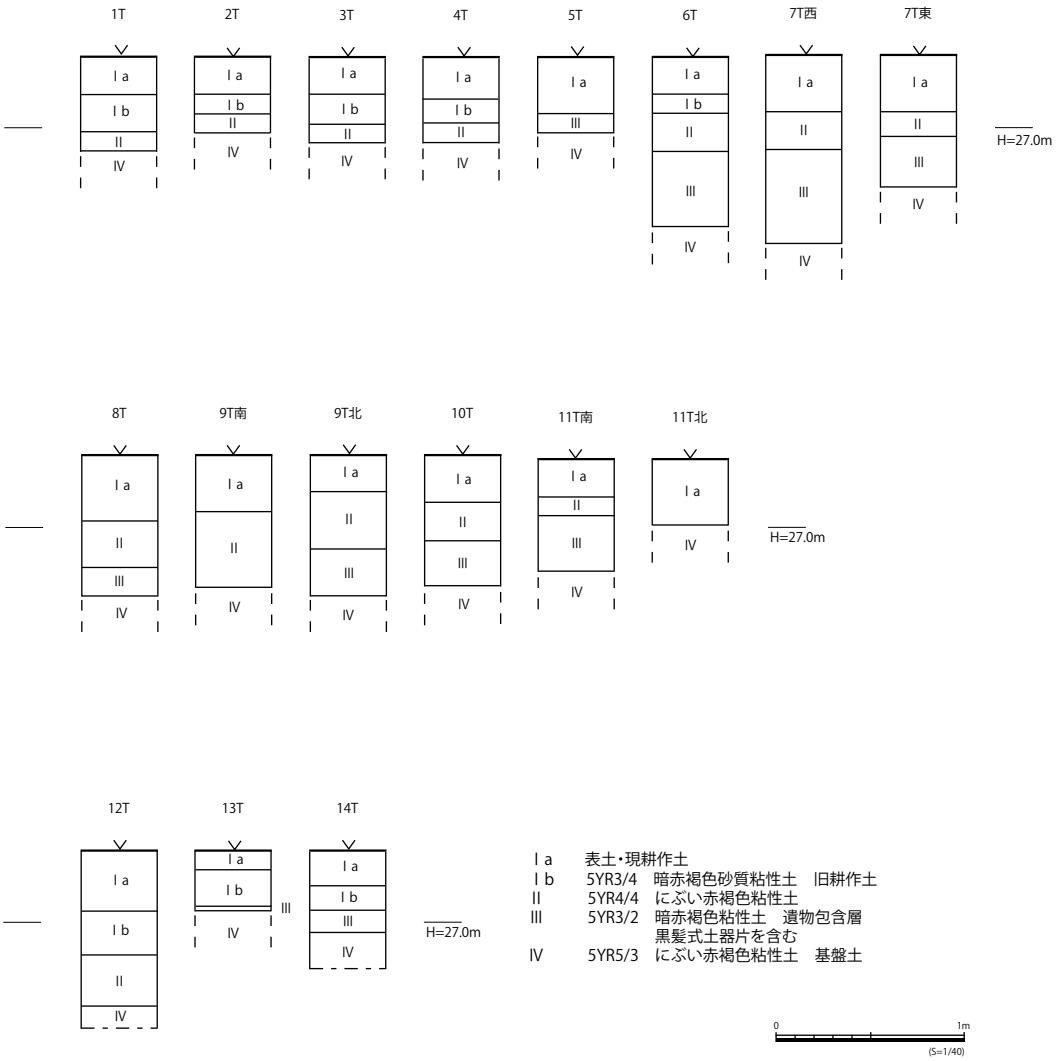


第２６図　鳥井原遺跡　調査地位置図　S=1/5,000

写真１５　鳥井原遺跡　８Ｔ全景　（北から）

写真１６　鳥井原遺跡　９Ｔ全景　（南から）

第 27 図　鳥井原遺跡　トレンチ及び遺構配置図　S=1/500



第 28 図　鳥井原遺跡　トレンチ実測図　S=1/40

写真１７　鳥井原遺跡　１４Ｔ遺構検出状況　（南から）

写真１８　鳥井原遺跡　１４Ｔ遺構検出状況　（南から）

１０　年の神遺跡

所 在 地：岱明町野口 2456-5
調査原因：分譲地造成（調査依頼）
対象面積：846㎡
調査期間：平成 30 年 10 月 18 日、10 月 25 日
担 当 者：蜷父雅史

調査地は、友田川左岸の丘陵上に位置する標高 16 m程の地点である。丘陵一帯は昭和 40 年代の農地造成に伴って多くの支石墓や甕棺墓などが確認されている。当敷地は、砕石敷きの駐車場として利用されていた。

調査依頼に基づいて、切土が発生する進入路部分にトレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認した。

基本土層は、Ⅰ層が客土（砕石・山砂）層、Ⅱ層が旧耕作土層、Ⅲ層が農地造成時の客土層、Ⅳ層が黒褐色粘性土層、Ⅴ層が黄褐色粘性土（無遺物層）であった。

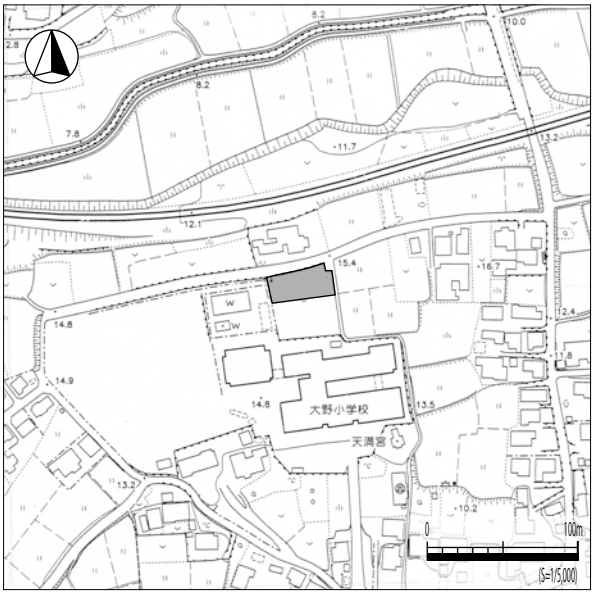
遺物は、Ⅳ層から弥生時代の土器小片を少量検出し、Ⅴ層上面で遺構を数基検出した。遺構は、竪穴建物遺構 1 基、土坑 4 基の他にピット数基である。

遺構面の深度は、現況面から約 90㎝下であり、北側に接する市道のレベルとほぼ同じであった。

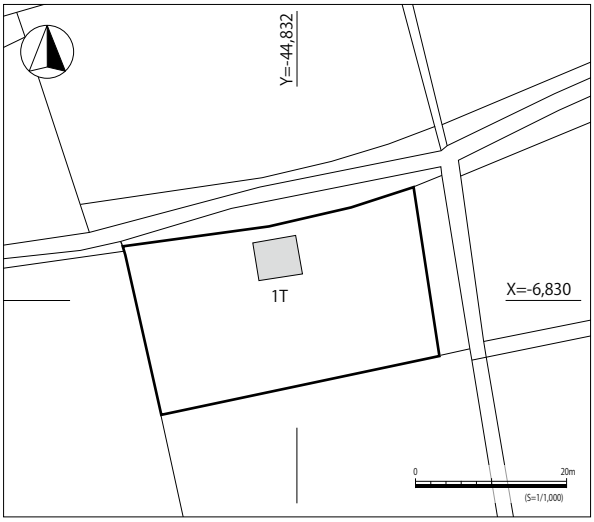
工事の内容は、分譲地への進入路設置及び水道管の引き込み工事である。進入路部分は、幅 6 m、長さ 10.5 mで、水道管に伴う掘削は、幅 40cm、深さ約 50㎝である。

調査区内で、工事の影響を受ける範囲については、遺構の性格を確認するために完掘を行ったが、既存の擁壁付近は未調査であった。しかし、その範囲は狭小であることから工事立会となった。

その後、擁壁の撤去時に工事立会を行い、遺構の検出を行ったが、以前の擁壁工事の際に攪乱を受けたとみられ、埋蔵文化財は検出されなかった。

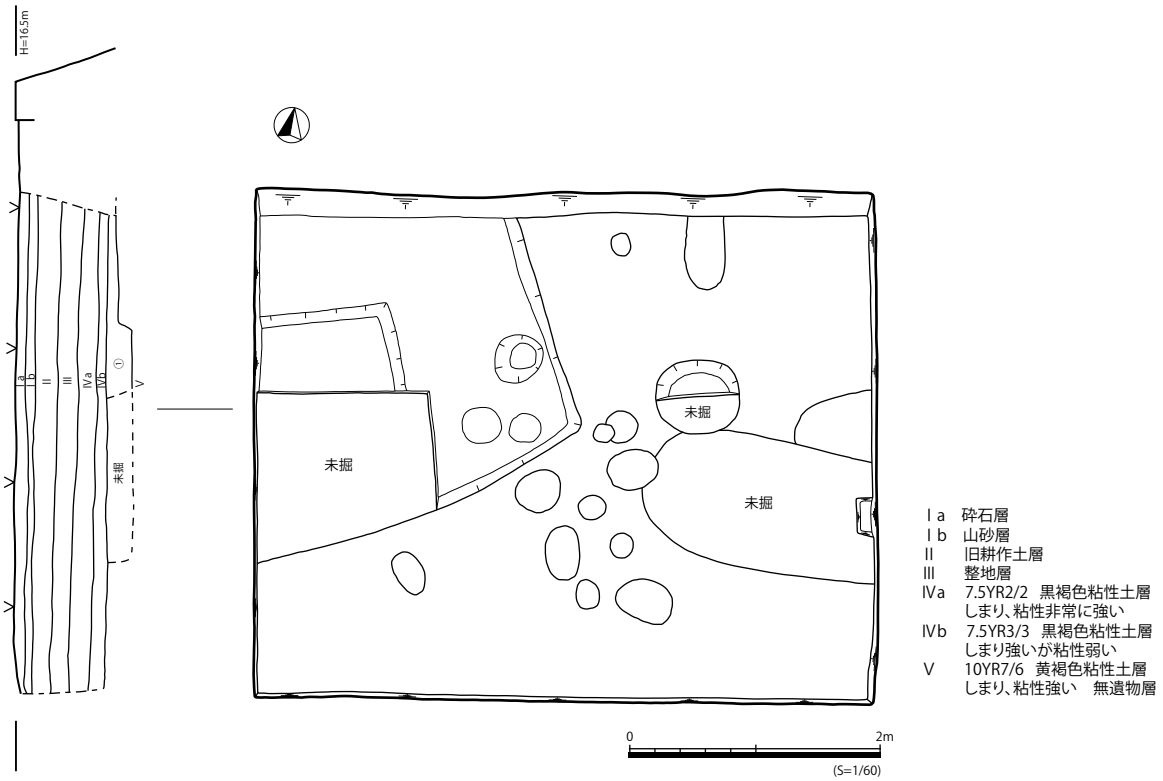


第２９図　年の神遺跡　調査地位置図　S=1/5,000

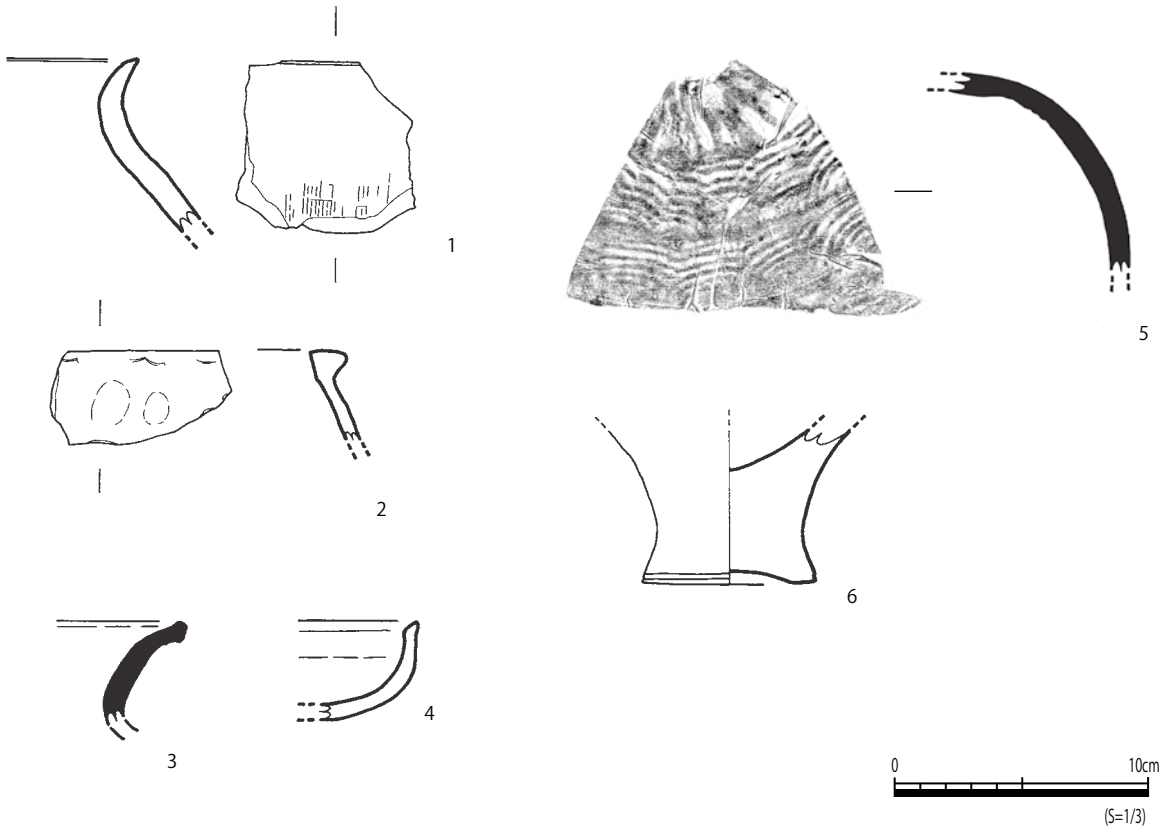


第３０図　年の神遺跡　トレンチ配置図　S=1/1,000

写真１９　年の神遺跡　遺構検出作業状況　（南西から）



第３１図　年の神遺跡　トレンチ実測図　S=1/60



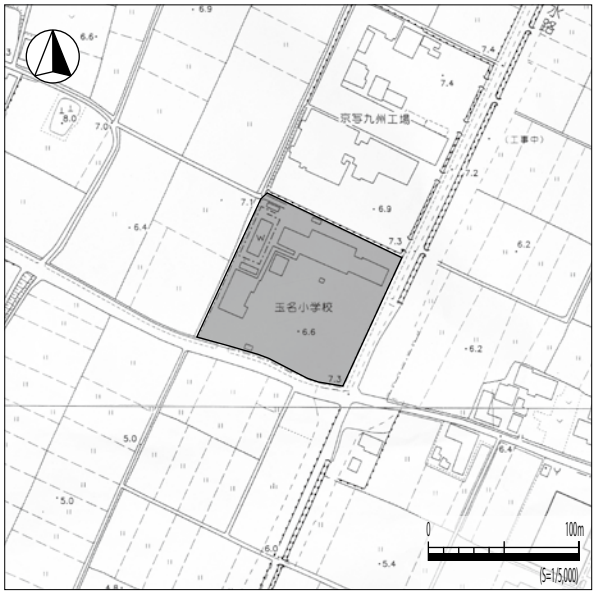
第３２図　年の神遺跡　遺物実測図　S=1/3

１１　玉名平野遺跡群

所 在 地：玉名字水町 856-1
調査原因：病院建設
対象面積：846㎡
調査期間：平成 30 年 10 月 15 日～ 11 月 20 日
担 当 者：田熊秀幸

調査地は、菊池川右岸の平野部に位置する、標高約 6m の地点である。現況は旧学校施設であり、調査時点で校舎は全て解体され、更地となっていた。

当該地では病院建設が計画され、平成 29 年度には、調査依頼に基づく確認調査を実施している。今回はその継続事業として、旧学校敷地内に合計 8



第３３図　玉名平野遺跡群　調査地位置図　S=1/5,000

第３４図　玉名平野遺跡群　トレンチ配置図　S=1/1,500

か所のトレンチを設定し、確認調査を行った。

その結果、3，5，6 トレンチにおいて、現地表下 110 ～ 130cm の深度で、古代から中世とみられる耕作面・畦畔・溝跡が確認されたほか、7 トレンチにおいても、南北方向の溝跡を検出し、埋土中から古代須恵器片が出土した。

また、6 トレンチ東端部において、地表下 110cm の深度で東西方向に走る土管を検出したほか、4，5，6 トレンチにまたがる形で、北東―南西方向の排水用暗渠が確認された。

今回の工事内容は、病院施設の建設、および水路の付け替え工事であり、確認調査の結果から、建物部分で埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲 970㎡については、発掘調査を行うこととなった。なお、水路部分は掘削が遺構面に及ぶものの、範囲狭小であるため、工事立会となった。

調査結果については、別途刊行の発掘調査報告書に掲載予定である。

写真２０　玉名平野遺跡群　調査地全景　（南東から）

写真２１　玉名平野遺跡群　１トレンチ全景　（北から）

写真２２　玉名平野遺跡群　３トレンチ層序（南から）

写真２３　玉名平野遺跡群　５トレンチ暗渠検出状況（北西から）

写真２４　玉名平野遺跡群　６トレンチ全景（南東から）

写真２５　玉名平野遺跡群　７トレンチ全景（北西から）

１２　官道跡

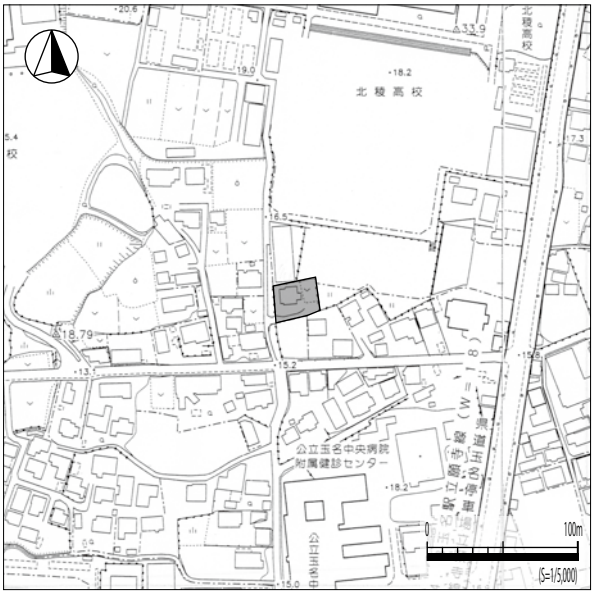
所 在 地：立願寺 201
調査原因：共同住宅
対象面積：685.73㎡
調査期間：平成 30 年 12 月 19 日
担 当 者：蜷父雅史

調査地は、境川左岸の低丘陵上に位置する標高 16 m程の地点である。西側に接する里道及び水路は、古代の官道跡と推定されており、平成５年度に市史編纂に伴う発掘調査が行われている。

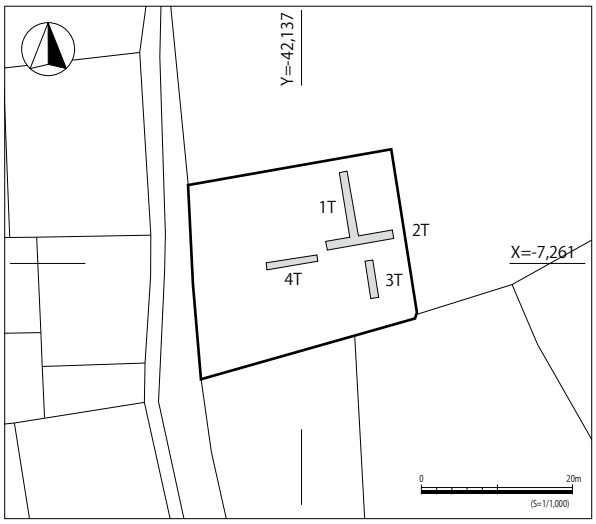
当該地は、以前から宅地化されており既存住宅があったため、掘削が可能な範囲を中心に計４本のトレンチを設定し確認調査を実施した。

基本土層は、Ⅰ層が表土層、Ⅱ層が客土層、Ⅲ層が暗褐色粘性土層（旧耕作土）、Ⅳ層が褐色粘性土層であり、いずれのトレンチも埋蔵文化財は確認されなかった。東側は宅地化の際に盛土が行われているものと考えられる。

計画では、既存住宅を解体した後に共同住宅を新築するものである。建物部分は現況から 50cm の盛土が行われ、その高さから 1.5m の地盤改良が予定されたが、想定深度で埋蔵文化財は確認されなかった。また、西側の官道跡付近は、駐車場造成に伴い、約 20cm の掘削が生じるが、隣接地における調査結果を考慮の上、埋蔵文化財に対する影響はないと判断された。調査後の措置は慎重工事である。

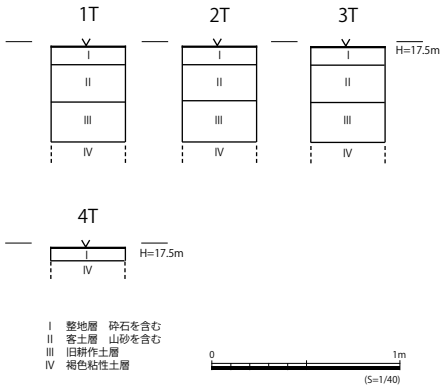


第３５図　官道跡　調査地位置図　S=1/5,000



第３６図　官道跡　調査地トレンチ配置図　S=1/1,000

写真２６　官道跡　調査地全景　（南西から）



第３７図　官道跡　トレンチ土層実測図　S=1/40

１３　今見堂遺跡隣接地

所 在 地：岱明町下前原 223 番地 1 外 4 筆
調査原因：消防署
対象面積：180.44㎡
調査期間：平成 31 年 1 月 22 日～ 3 月 15 日
担 当 者：蜷父雅史　田熊秀幸

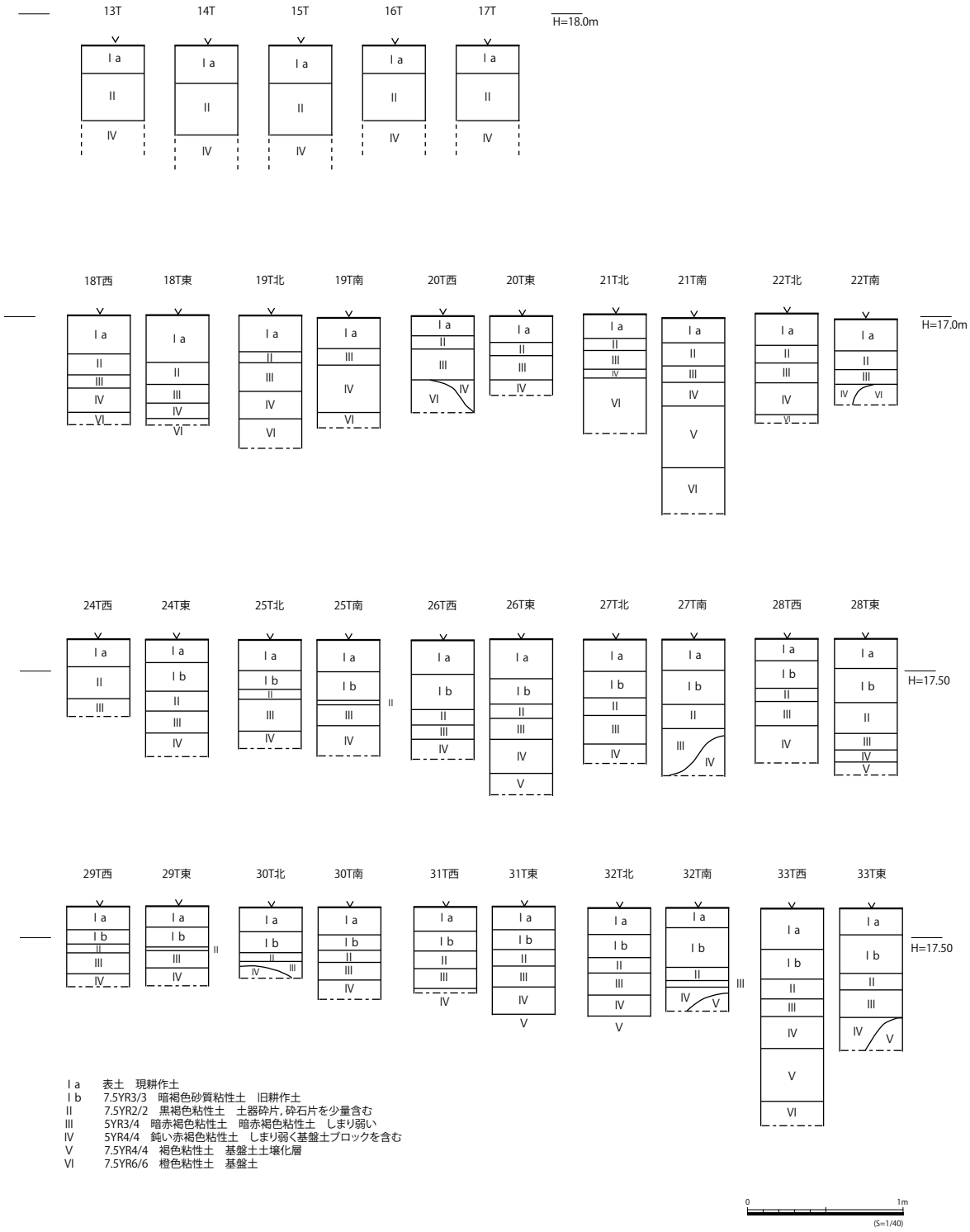
調査地は、境川右岸の低丘陵上に位置する標高 17 m程の地点である。当該地では、平成 29 年度から調査依頼に基づく確認調査を実施しており、第一次調査については、既に報告書を刊行している。

第二次調査では、前年度から引き続き、周知の埋蔵文化財包蔵地今見堂遺跡に隣接する 5 筆において、計 21 本のトレンチを設定して確認調査を実施した。その結果、一部のトレンチで風倒木痕を認めた外は、明確な遺構・遺物は確認されなかった。

以後、土地売買が完了した筆において、継続して確認調査を実施する予定である。

第３８図　今見堂遺跡隣接地　調査地位置図　S=1/5,000

第３９図　今見堂遺跡隣接地　トレンチ配置図　S=1/2,000



第４０図　今見堂遺跡近接地　トレンチ実測図　S=1/40

写真２７　今見堂遺跡隣接地　調査地全景　（南東から）

写真２８　今見堂遺跡隣接地　調査地全景（南から）

写真２９　今見堂遺跡隣接地　１４Ｔ全景　（南東から）

写真３０　今見堂遺跡隣接地　１６Ｔ全景　（北から）

写真３１　今見堂遺跡隣接地　１７Ｔ全景　（西から）

写真３２　今見堂遺跡隣接地　２２Ｔ全景　（南から）

写真３３　今見堂遺跡隣接地　３３Ｔ全景　（南西から）

写真３４　今見堂遺跡隣接地　３３Ｔ　風倒木痕　（南から）

１４　下立願寺遺跡群

所 在 地：立願寺字山 367,368,369-2
調査原因：調査依頼
対象面積：878.10㎡
調査期間：平成 31 年 3 月 25 日
担 当 者：田熊秀幸

調査地は、繁根木川右岸の台地上に位置する、標高約 26m の地点である。当該地は、宅地造成の計画に伴い切土が予定されたため、調査依頼に基づき確認調査を実施した。

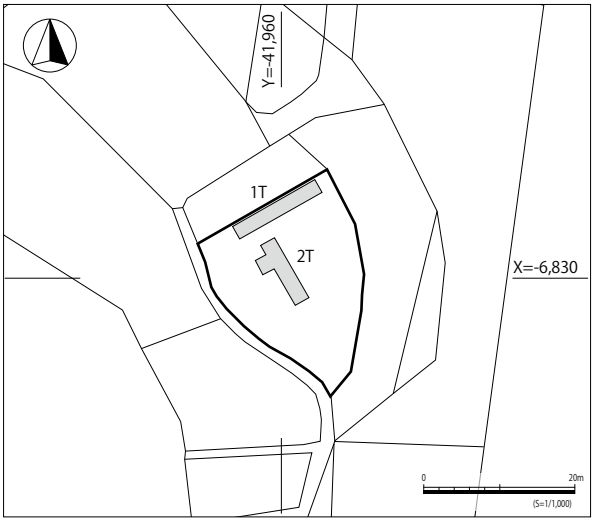
基本土層は、現地表下 cm までが表土及び建物の解体整地層であり、以下で褐色粘性土層（Ⅱａ層）、にぶい黄橙色粘性土層（基盤土・Ⅱｂ層）を認めたが、明確な遺構は確認されなかった。

確認調査後、文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出され、宅地造成が行われることとなった。その後の処置は慎重工事である。

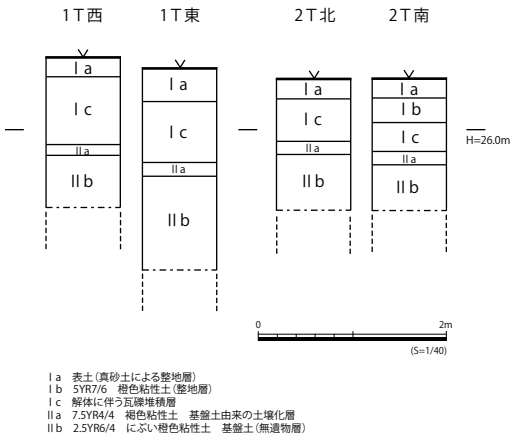
写真３５　下立願寺遺跡群　調査地全景　（西から）

写真３６　下立願寺遺跡群　２Ｔ全景　（南から）

第４１図　下立願寺遺跡群　調査地位置図　S=1/5,000



第４２図　下立願寺遺跡群　調査地トレンチ配置図　S=1/1,000



第４３図　下立願寺遺跡群　トレンチ土層実測図　S=1/40

第 2 表　平成 30 年度出土遺物観察表

実測番号	遺跡名	出土地点	種　別	器種	残存部位	法量 (cm)			器面調整		色調		胎　土	焼成	備　考
						口径	底径	器高	外　面	内　面	外　面	内　面			
第 32 図 1	年の神遺跡	1 T 包含層	弥生土器	壷	口縁部	-	-	(6.9)	ハケ目　ナデ	不明	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	φ 3mm 以下の石英角閃石、白色、黒色の砂粒を含む。	良好	
第 32 図 2	年の神遺跡	1 T 包含層	弥生土器	甕	口縁部	-	-	(3.2)	ナデ	ナデ　指オサエ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	φ 3mm以下の石英、白色、黒色の砂粒を含む。	良好	
第 32 図 3	年の神遺跡	1 T 包含層	須恵器	甕	口縁部	-	-	(3.9)	回転ナデ	回転ナデ	10YR3/2 黒褐色 釉 10YR2/3 黒褐色	10YR3/1 黒褐色	φ 3mm 以下の白色砂粒をやや多く含む。	良好	
第 32 図 4	年の神遺跡	1 T 包含層	須恵器	坏身	口縁～底部	-	-	(4.0)	回転ヘラ削り	回転ナデ	7.5YR8/1 灰白色	7.5YR8/1 灰白色	φ 2mm以下の石英、白色、黒色の砂粒を含む。	不良	
第 32 図 5	年の神遺跡	1 T 包含層	須恵器	平瓶	胴部	-	-	(7.2)	回転ヘラ削り	タタキ	710YR6/1 褐灰色	710YR6/1 褐灰色	白色砂粒を少量含む	良好	内面に当具痕あり
第 32 図 6	年の神遺跡	1 T 住居跡内	弥生土器	甕	底部	-	6.9	(6.0)	不明	ナデ	10YR8/4 浅黄橙色 5YR	7.5YR7/6 橙色	φ 4mm 以下の石英、角閃石、雲母を含む。	良好	

報 告 書 抄 録

ふ り が な	たまなしないいせきちょうさほうこくしょ
書 名	玉名市内遺跡調査報告書 12
副 書 名	平成３０年度の調査
シ リ ー ズ 名	玉名市文化財調査報告
シ リ ー ズ 番 号	第４６集
編 著 者 名	蜷父雅史　田熊秀幸
編 集 機 関	玉名市教育委員会
所 在 地	〒 865-8501 熊本県玉名市岩崎 163
発 行 年 月 日	2020 年 3 月 23 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
南出遺跡群（A地点）（みなみでいせきぐん）	玉名市中	43206	440	32°55′42″	130°33′01″	2018 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		学校施設・宅地造成・店舗等
高岡原遺跡（A地点）（たかおかばるいせき）	玉名市山田	43206	256	32°56′11″	130°32′32″			
西ノ山遺跡群（にしのやまいせきぐん）	玉名市築地	43206	202	32°56′21″	130°31′30″			
高瀬藩邸跡（たかせはんていあと）	玉名市岩崎	43206	321	32°55′55″	130°33′16″			
高岡原遺跡（B地点）	玉名市山田	43206	256	32°56′16″	130°32′40″			
高岡原遺跡（C地点）	玉名市山田	43206	256	32°56′11″	130°32′31″			
南出遺跡群（B地点）	玉名市中	43206	440	32°55′43″	130°32′56″			
高岡原遺跡（D地点）	玉名市山田	43206	256	32°56′16″	130°32′40″			
鳥井原遺跡（とりいばるいせき）	玉名市立願寺	43206	268	32°56′15″	130°32′59″			
年の神遺跡（としのかみいせき）	玉名市岱明町野口	43206	429	32°55′18″	130°31′14″			
玉名平野遺跡群（たまなへいやいせきぐん）	玉名市玉名	43206	105	32°56′45″	130°34′34″			
官道跡（かんどうあと）	玉名市立願寺	43206	269	32°56′02″	130°32′57″			
今見堂遺跡隣接地（いまみどういせきりんせつち）	玉名市岱明町下前原	43206	459	32°55′47″	130°31′42″			
下立願寺遺跡群（しもりゅうがんじいせきぐん）	玉名市立願寺	43206	333	32°56′15″	130°33′04″			

主な遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高岡原遺跡（B地点）	包蔵地	中世	土坑・ピット		
高岡原遺跡（D地点）	包蔵地	弥生時代後期	竪穴建物跡・土坑・ピット		
鳥井原遺跡	包蔵地	弥生時代中期	竪穴建物跡・ピット		
年の神遺跡	包蔵地	古代	竪穴建物・土坑・ピット	弥生土器・土師器・須恵器	

玉名市文化財調査報告　第 46 集

玉名市内遺跡調査報告書 12

― 平成 30 年度の調査 ―

令和２年３月 9 日印刷
令和２年３月 23 日発行

編集発行　玉名市教育委員会
〒 865-8501　熊本県玉名市岩崎 163
TEL 0968-75-1136・FAX 0968-75-1138

印　　刷　有限会社　玉名民報印刷
〒 865-0015　熊本県玉名市亀甲 261
TEL 0968-72-2535・FAX 0968-72-4648